

第9章 総 括

本アンケートでは、本校がこれまで取り組んできた教育課程とその目指す方向について、本校卒業生、専攻科修了生および県内外の多くの企業・官公庁の意見をうかがい、2章から8章までにまとめました。個別のまとめは各章の最後にありますので、ここでは全体を通じて共通した傾向について述べたいと思います。

1つめは、徳山高専がこれまでに行ってきた専門教育は有効に機能し、卒業生、修了生および企業等から一定の理解と評価が得られている、ということです。時代の変革と技術の進歩に伴い求められる技術者像が変化するのに合わせ、カリキュラムを改善し、指導を行ってきた成果とあってよいでしょう。しかしながら、これからも社会情勢の変化に合わせ、学習・教育レビュー室やFD委員会等の活動や提言に基づき、恒常的に教育改善を続けていく必要があります。

2つめは、技術者である前に一人の社会人として、卒業生あるいは修了生が社会で活躍できるよう、学校において人間的な教育を行うよう強く求められている、ということです。これは、卒業生および修了生が社会に出てから気づいたことでもあり同時に、彼らを採用していただいた企業・官公庁からの意見でもあります。教育課程においてこの部分に大きく関わるのは一般教養科目ですが、カリキュラム改善によって従来に比べて充実した内容となってきました。教育課程以外の部分では、「まえがき」にも述べたように、人間性の涵養のために、これまでもクラス担任によるホームルームでの密接な指導、クラブ活動を始めとし、各種のコンテスト・コンクール・コンペティション等の活動を通じて行い、学生相談室や進路支援室の設置によってその支援体制が整いました。しかしながらその体制が有効に機能するためには、個々の教員がこの問題を認識し、全ての教育課程あるいは課外活動の場で学生の「人間力」ともいえる技術者の土台を形成することを念頭に、教育活動を行っていく必要があると考えられます。

最後に、このアンケートをまとめるにあたって感じたことは、多くの卒業生、修了生および企業等の方々には、徳山高専に大いに期待をしていただき、期待があるだけに厳しくも暖かい意見を送っていただいている、ということです。我々教職員はその声に真摯に耳を傾け、改善する努力を続けることが必要です。全ての卒業生や修了生が「徳山高専に入ってよかった」と思い、彼らを採用した企業・官公庁が「徳山高専の卒業生・修了生を採用してよかった」と思っていたら、地に足の着いた教育活動を行うことが重要だといえるでしょう。

(担当：張間)